

今年の夏は、連日の猛暑、熱中症で尊い命が奪われるなど異常気象そのものでした。そういう中でも、我がアカシア会の各事業所では“夏ならではの”の取り組みがありました。今回は、“**2010 アカシアの夏**”と題して通信を発信します。



★心に残っているあのことこのこと◆ **ヒマワリ奥さん**

(ヒマワリの花言葉は“あなたを見つめる”)

「さあ往診に出るよ」と、覚悟しながら掛け声をかける。クリニックの扉を開けると、ムーンと熱風がからみつく。往診車に乗り込むと、中はまさにサウナ風呂状態である。桜の木が、緑の日除けになっている並木道は、涼しい爽風が横切る。江戸川土手沿いのバイパスを走ると、ヒマワリが、満願笑顔で語りかけてくる。そしてまん丸の眼でじーとこちらを見つめる。



アルツハイマーで寝たきり状態になって5年のYさん。つきっきり介護の奥さんががっちり守っている。少し背中が丸くなり、巨大化した鶏の目で痛む足を引きずる。経管栄養、吸痰、おむつ交換、清拭、とこずれ処置と独楽鼠のように、毎日働き回る。「Y三郎は、私を休ませないんです。吸痰を手抜きすると、嘔き出てくるんですよ」。色白のまあるい顔で、じっと夫を見つめる。この奥さんの最大の心配が、栄養チューブの交換に、入院が長びく事である。「長いほうが、骨安めになって良いんじゃないの？」と慰めるが、「入院は短いほど嬉しいんです」と頑として譲らない。「入院すると、必ず褥瘡が悪くなるんですから」と。先日、「日帰りコースでチューブ交換が済みました」と、笑顔が輝いたヒマワリ奥さんである。

「Y三郎は、運が良いんですよ。早めに診断がされて、早めに治療がされたし。誤嚥性肺炎の時も、早めに入院できて、命が助かったし。寝たきり状態になって、往診が必要になった時には、先生が開業されて、すぐ往診に来て下さるようになったし。訪問看護も皆さん一生懸命やったださるし」と、ひまわり奥さんは夫を見つめる。
(クリニックふれあい早稲田 院長 大場敏明)

猛暑を吹き飛ばした

わが倶楽部の“夏”

★デイサービスふれあい倶楽部★

今年は猛暑日が多く老若男女問わず厳しい夏でしたが、涼しげな雰囲気や夏らしさを感じられる活動内容にしようとしてスタッフと利用者さんと工夫し考えました。その中でも盛り上がった活動を紹介させていただきます。

まずは“流しソーメン” 雨どいを使って流しから水と共にソーメンが流れてきます。流れてくるのはとソーメンだけではなく。おやおや？ゼリー・スイカ・ミカンも流れてきて目を白黒させる方あり、反応しない方あり、思わず立ち上がり夢中になる方、上手に取れる方、目の前を白やら赤やらと流れていってしまう方、いつもより食欲の出る方等と様々で楽しかったです。涼しさを満喫した流しソーメンでした。

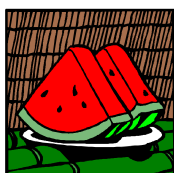


<美味しいね>



<お先に失礼 あら……？>

そして夏恒例の“スイカ割り”スタイルは変えずタオルで目隠し。木の棒を持ってスイカに向かって歩いていきます。どうしても右に・・左に・・と寄ってしまう為、周りからも“右だよ～左だよ～”“こっちじゃないよ～”“あぶないよ～”と声が上がります。が”、どっちが右だっけ？”と困惑の姿もありスイカになかなか当たりません。もう見てはもらえず、お節介なのか優しいの、それとも仲間意識からか助っ人（ナビ？）が入る場面もありました。早く食べたいのに～”やっとならぬとふたつに割れると歓喜とともに拍手！ お味は・・もちろんおいしかったです。夏はやっぱりスイカですね。



<ナビ(?) 登場>



<やった！！ 拍手喝采 食べられる>

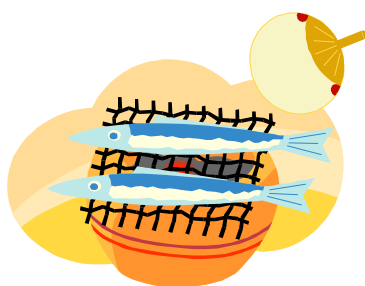
本部の駐車場で開いた“バーベキュー”では、ふれあいの畑で採れた野菜、普段買わないちょっと贅沢な牛肉に焼き鳥、ウインナー、焼きおにぎりと盛りだくさんでした。しかし、利用者さんの盛り上がりは今ひとつでした。川も山もなく自然が足りなかったのですかね。バーベキューは、木や草など自然の空気や風景も大事な食材なんですね。学びました。

おまけは 千葉県野田市の清水公園！！ 朝から畑で収穫したキュウリを漬物にし、おにぎりをたくさん握っていざ出発！！ キャンプ場内にある、マス釣り場に到着するとバーベキューを楽しむ家族連れや夏休み中の若者たちで賑わっていました。 竿を借りて早速釣りを始めると、あっという間に4匹釣れて職員は大あわて！！ 焼いてもらっている間にもうお昼です。焼きあがったマスをおかずにしておいしく食べました。驚いた事に、普段は骨があると職員に「骨がある。取ってよ」というのに、この時は夢中になって自分で取って食べていたのです。骨を取る事ができるんですね。

マス釣り場での昼食はひと味違って、食べながらも釣りを見て、おもしろく、たのしく、ときには口を出しつつもと違う雰囲気を楽しめました。



<いつになく真剣な眼差し>
秋はどこに行こう！！



<釣れてくれて、ありがとう>
(担当；阿部政枝)

「アカシア会」「三郷わせだ健康友の会」主催

第2回「平和のつどい」を開催

平和こそ 私たちの“宝物”

今年で2回目（2年連続）の“平和のつどい”が8月7日と8日にかけてクリニックふれあい早稲田とアカシア会本部を会場に開催し150人を超える方が参加されました。

7日は今年より企画した前日祭として「はだしのゲン（アニメ）」を上映、子供も含め24人が参加されました。後日、映画を鑑賞された子供連れのお母さんからの感想では4歳男児は「戦争の悲惨さに怖か

ったみたいで、数日間夜鳴きしていたそうです」。また、兄の7歳男児は「主人公のゲンに対し、可哀想で上映中も涙をながしていた」との事で、「戦争はやってはいけない」との思いが引き継がれました。

8日は、大場敏明理事長の開会挨拶後、塩沢美智子さんのピアノの演奏でスタート。特に今年はショパン生誕200年を記念してショパン曲を中心に演奏していただきましたが、会場にはうっとりした空気が流れ、平和だからこそこの空気だと思いました。

また、立花真由美さんによる歌は、みんなが知っている歌謡曲（美空ひばりから最近のヒット曲まで）4曲を歌っていただきましたが、『翼をください』は、参加された皆さんと一緒に歌い笑顔が会場を包みました。なお、立花さんは「スター誕生」から歌手になった方で、今でもライブ活動を続けています。もう一方では介護福祉士の資格を取りグループホームで働き、現在は、ヘルパーを養成する講師として福祉分野で活躍しています。



引き続き、今年5月に米国・ニューヨークの国連本部で開催された「核拡散防止条約（NPT）」再検討会議に参加された上野知子さん（74歳）からの報告と併せて藤川信子さん（85歳）の戦争体験の語りが行われ、戦争と平和の問題を考える重要な機会となりました。

アカシア会各事業所の職員や友の会役員、ほっとピアノ、みどりの風など協賛していただいた団体からも模擬店やバザーなどが並び大いに賑わいました。なお、パティオでは、職員とメンバーさんが「かき氷」の模擬店も出展、メンバーさんからは「働くってとっても楽しいね」という感想文が寄せられました。

「平和のつどい」の結びは、参加者全員で平和の願いを込めた

白い“エコロジー風船”を大空に放ちました。なお、エコ風船は天然樹種からつくられており、落下後は土に還る環境にやさしいもので、来年以降は風船の表面に絵を描いたり平和へのメッセージを描き表すことを検討しています。



藤川信子さんから「戦争体験の手記」を書いていただきました。

<風船に平和の願いを込めて>

戦争を潜り抜けて

「平和のつどい」では、“忘れられない日”と題してお話させていただきました。先ず1945年（昭和20年）8月15日。この日は戦争終結を天皇がラジオを通じて全国放送をした日です。長い戦争からの開放感。これで空襲が無くなる。夜寝られる。ホッとした日です。本当は、富国強兵の政策によって押し進められてきた悲惨な結末で歴史が大きく転換していく日なのですが。

次は、同年7月4日。高松で空襲を受けた日です。午前1時41分より約4時間、B29約90機による爆弾の雨に曝されました。実弾の怖さ、何をすることも無く家族身を寄せ合っただけでした。でも被害はその一日だけではありません。空襲を受ける日までは、毎日、今日か明日かと恐怖に怯え、空襲を受けた後は無残な焼け野原の市街地。市民生活は一変しました。

8月6日、広島への原爆投下。3月まで広島にいた私にとって次々にわかる悲惨な状況に、教え子、同僚、友人の事など、その日以来私の心を離れる事は有りません。

今年5月に、勤めていた学校の跡地を探しましたらNTTの大きなビルのほんの片隅に小さな碑が建っていました。せめてもう少し広々と残して欲しかったと憤りと悲しみを覚えました。

戦争中大抵の人は、食糧不足でお腹を空かせていました。食糧不足を補うために外米が配給されていましたが臭くて不評でした。でもそのお米は産地の大切な食糧でベトナムでは200万人の人が餓死したという事を戦後知りました。

命を粗末にし、人の命と心を奪う戦争という状態を二度と繰り返さないよう、過去を知り、次の世代へと語り継いでいって欲しいものです。（担当；荒木事務長）



みんなも レスラーも 熱く々燃えた一日

★相談支援センターパティオ★

8月15日。覆面プロレスラーのミステル・カカオ選手の10周年を記念して開かれた「覆面マニア15」に障がい者の皆さんが招待されました。リングサイドで見るプロレスは迫力満点です。覆面プロレスラーといってもカカオ選手のような強者から、かわいらしいキャット選手、場外乱闘になると必ず、障がいのある皆さんの周辺をガードして守ってくれる心優しい虎龍鬼選手など千差万別です。

知的な障がいのあるAさんは、覆面の色で応援するレスラーを決めて「赤色頑張れ！」と叫び、精神に障がいがあるBさんは、「怪我しないかな？ 真剣勝負も笑いもあって楽しい」と自分も覆面を被って応援し、身体に障がいのあるCさんは、レスラーの頑張りを見て「私も頑張るよ」と興奮気味に語るなど、真夏に熱く々燃えたプロレス観戦でした。

カカオ選手との出会いは、以前に東北の施設を訪問して

その支援者からの紹介がきっかけでした。それいらいプロレス観戦に招待していただいたり、障がい者や高齢者の施設に足を運んでいただき交流を深めてきました。リングだけでなく地域でも元気と勇気を与える活動をされています。



＜場外乱闘へ＞

★ カカオさんってどんな人？ ★

- ①マスク職人（ミシンを駆使し、覆面マスクなどを作成）
- ②プロレスラー（覆面レスラー「ミステル・カカオ」としてリングで戦う）
- ③大会プロデューサー（試合の興行をプロデュース）
- ④タレント（テレビ、ラジオ、映画「しんぼる」やショートフィルムなどでも活躍中）

MISTER CACAO からのメッセージ

☆無料招待を始めたのは…



＜勝利の雄叫び？ 踊り？＞ バーチャルゲーム世代の子供達にはプロレスを生で観戦していただく事により、技の攻撃や殴打による痛みや苦しさなどを知ってもらいたいと思っています。暴力で人を傷つけた時、相手がどのくらい苦しいとか、その痛みとかを理解できるのではないかと考えます。格闘を観せるためだけの興行ではなく、様々なメッセージを皆さんに発信するようなプロレスを続けていきたいと思っています。

☆障がい者の方々と交流を通して…

プロレス観戦をしていただいたり、施設を訪問してお会いし握手をするだけでも「元気や勇気、励みや刺激になる」と感想が寄せられています。

一生懸命、夢を実現し、自分のために闘ってきた自分でも皆さんの役にたっている。プロレスラーとして、リングで闘う以上に必要なことと巡り会えて嬉しく思っています。相手に勝利した時よりも、皆さんとお会いする時、応援と声援を受けている時、皆さんが元気な笑顔になった時こそ、プロレスラーになって本当に良かったと思います。



＜キャットさん カカオさんと 相談スタッフ＞



＜対戦；腕相撲 施設にて＞



＜岩佐君とハイポーズ＞

写真の岩佐君は、骨形成不全のため歩行などの障害があり不登校でした。カカオさんとキャットさんに出会い、その後、文通で絆が太く強くなったのです。岩佐君は、その中で勇気をつかみ不登校から脱却したのです。私たちもエネルギーをもらいました。

相談支援センターでは余暇支援の一環として取り組んでいます。ぜひ一度観戦に行ってみませんか？これからもお互いが笑顔になれる機会（チャンス）を提供していきたいと思ひます。（担当；山田一三）

浴衣着て 納涼祭にお呼ばれしました

★グループホームふれあいの家 小規模多機能施設アカシアの家★

8月7日、今年も近所の特別養護老人ホーム小鳩園さんの納涼祭にご招待されました。いつも美しいのですが、より美しくと張り切りました。職員はメイクアップアーティスト&着付けの先生に職替え。早速準備を始めます。皆さんソワソワ……。「えっ化粧？ 嫌だ〜」と言いなながらも誰も無抵抗。そしてされるがままの、まな板の鯉状態。もちろん「私の順番まだですか？」と楽しみにして順番待ちの方もいらっしゃいます。



口紅も上手にぬれますよ。やっぱり皆さん女性です。化粧と着物で表情も変わり、「とっても美しい！」とほめれば誰も「うん」と。本当にいつも以上に綺麗です。



納涼祭では、お店あり、歌あり、職員さんの出し物ありで盛りだくさん。食べる、歌う、そして踊る、もちろん飲む。



あっという間に日が暮れ、楽しい納涼祭も 20 時で終わりを告げました。小鳩園の皆さん、毎年お誘いありがとうございます。

ところで着付けにはスタッフだけではなく、近所の習字の先生が手伝って下さいました。いつもありがとうございます。（お習字の教室には利用者さんも生徒で登校しています）

この地域で生き、楽しく暮らしていける事を実感した納涼祭でした。そんな気持ちと利用者さんの笑顔、

この地域で暮らし続けていく、大切にしたい人や気持ち。来年もまた、みんなで。 (担当；寺崎織江)



花火の競演に見惚れました

★地域活動支援センターパティオ★

パティオは、3階にあります。今年も三郷と流山の花火大会が同日・同時間に開催されパティオの和室から両者の花火を観戦する事ができます。右の窓からは流山、左からは三郷と贅沢な話です。両者が争うようにドンドン・バラバラと打ちあがり、右を見たり左を見たり大忙しです。



8月21日、毎年恒例の花火大会(三郷サマーフェスティバル)が行なわれました。毎年職員は、花火大会シフトで挑みます。花火大会の終わりまでパティオを開けるため、午後9時まで勤務するのです。

13時半に開館すると、だんだんと人が集ってきました。花火大会に合わせて夕食を作ってみみんなで食べる「夕食会」も行なわれます。16時近くになり、メンバー、スタッフ、実習生、ボランティアが手分けをしておにぎりを握ったり、唐揚げを揚げたりと大忙し。17時半頃には支度もおわり夕食会のスタート。テーブルには「NPOほっとピア」さんから買い付けた野菜いっぱい焼きそばも並びます。

19時、一旦食器などを片付けて(?)、花火観賞のスタンバイです。この頃には1日の仕事を終えてやってきた夫婦や、娘さん・お孫さんをつれた方もエントリー。和室の窓の障子を全部取り外して視界を広げ、部屋の電気を消して、今か今かと花火の開始を待つこと15分。ついに花火開始! みんな窓際に寄って花火を鑑賞します(写真 下)。「ドーン、ドーン」という音がすぐ近くから聞こえます。なかには、江戸川の土手まで見に行っただ人たちもいて「花火の灰が降ってきた」と言っていました。

2時間かけてパティオに来ている実習生さんは、よっぽど花火が素晴らしかったのか、電車の時間を心配して「帰ってもいいよ」と声を掛けても、結局終わりの時間まで花火を見ていました。最近三郷市に越してきたというボランティアさんは、「まるで親戚の家に来たように」楽しい時間を過ごせたようです。パティオ最年少のメンバーさんは、この日初めて、付き添いなしで、独りで通所されました。

今年のご家族の方なども含め28の方がパティオに集まり共に時を過ごしました。毎年このプログラムにはたくさんの方が参加されます。涼しい部屋で花火が見られることもあります。やはり「みんなで楽しめること」が人気の理由なのだと思います。



<後片付けを忘れて、花火を観戦>



<たまや〜>



<窓から身をのり出して>

(担当；長谷川明子)

【編集あれや これや】

こうして多くの思い出と、多少の夏バテ気味を残して「2010 アカシアの夏」が過ぎ去って行きました。こんな流暢なことを言っている場合ではありません。残暑厳しい9月の後半になった途端に、「秋の入り口を楽しむ」などという情緒を楽しむどころじゃありません。一日で10度以上も急激に下がった気温に町行く人々の服装がガラリと変わりました。驚きです。

秋は、イベントや企画が満載です。「パティオ講演会」「ふれあい広場」「高次脳機能障害講演会」「医団連での演題発表」「協議会介護活動交流集会」「自分史づくり」などなど。やれやれ…… <長島>